

諫高同窓会々報

長崎県立諫早高等学校
同窓会事務局
TEL 22-1222・FAX 22-5104
http://www.news.ed.jp/isahaya-h/
編集 馬場 秀樹
印刷 諫早印刷株式会社
TEL 22-1350

コロナ禍のなかで



同窓会々長 池田 光利
(高校二十回・昭和四十三年卒)

同窓会の皆様には、同窓会活動に深くご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。
令和二年度は、コロナ禍の中での同窓会活動を

なっております。このような状況下で関西支部は昭和三十五年(一九六〇年)の発足より六十年を迎えられ、諫早高校同窓会 関西支部 発足六十周年記念誌」を十一月一日に発行されました。真崎支部長をはじめ役員・会員の皆様方の九十五ページにわたる記念誌発行への情熱に深く敬意を表します。
ところで母校では、昨

年附属中学校創立十周年、今年諫早高校創立百周年を迎えます。同窓会では、新型コロナウイルス対応として、教室用パソコン十台の購入、タブレット五十台の通信容量の拡大(7G↓50G)整備を、創立周年記念事業のひとつとして昨年実施しました。
また諫高陸上部駅伝女子は、年末恒例の全国高校駅伝大会へ二年連続二十六回目の出場を果たしました。今回はコロナ感染防止のため、たけびしスタジアム京都は無観客での開催となり、諫早から学生応援団、同窓会等の応援参加も中止となりました。主力の三年生の故障のため一・二年生

の選手構成で、成績は十七位と昨年の八位には届きませんでした。来年へ繋がるものと思えます。
そして諫高陸上部駅伝男子が、十一月の長崎県大会へ四年ぶりに出場し、四十一校中十四位の成績でした。前年まで部員不足のため参加できなかったのですが、これは嬉しいニュースでした。
それから、昨年三月第七十二回卒業の後輩諸君が、進学において好成績を収めてくれました。
今後とも同窓会活動を通して、会員相互の親睦を校是とする母校の発展のため、会員の皆様のお力添えをお願いします。

諫早高校創立百十周年・附属中学校創立十周年開幕行事



校長 原田 尚之

同窓会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
昨年の十二月に京都市で開催された女子第三十二回全国高等学校駅伝競走大会において、本校陸上部女子チームが出場するにあたり、諫早高校駅伝後援会からご支援のお願いをいたしましたところ、多くの同窓会員の皆様からも募金をお寄せいただきました。皆様のご支援に対し、心より厚く御礼申し上げます。コロナ禍の中選手達の調整も

難しく、前回八位入賞の成績を上回ることはできませんでしたが、皆様の温かい支援や応援のお陰で選手達は最後まで諦めず一生懸命頑張りました。今後とも一層のご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年は諫早高校附属中学校が創立十周年、今年には諫早高校が創立百十周年を迎えます。そこで、昨年十一月の開幕行事を皮切りに一年間を「創立周年記念年」と位置づけ、各学校行事に「創立周年記念」の冠

を付けて実施してまいります。スローガン「Restart」軌跡をたどり、奇跡をつくる」とシンボルマーク(下図)は、生徒から募集し、先生方で厳選後、生徒の投票で決定しました。
開幕行事では、地元諫早で活躍されている三人の方をパネリストにお迎えしてパネルディスカッションを行いました。コロナ禍の中、会場である第一体育館で参加する学年と各日R教室でWeb会議システムを活用して参加する生徒に分けて「三密」を回避して行いました。その際に使用したノートパソコンの一部は同窓会のご支援をいただきました。ご支援に心より感謝申し上げます。
開幕行事で行われたパネルディスカッション

スローガン 『Restart～軌跡をたどり、奇跡をつくる～』

シンボルマーク



漢字の「百十」と「叶う」という字をかけている
「」は眼鏡橋と本(勉強・努力)をかけている
矢印は、進むべき方向「未来」や「上昇」をあらわしている

は、パネリストの方は職員で選ばせていただきましたが、その後のテーマの決め方や進行方法は、グローバル講演企画チーム(生徒有志)の熱望により生徒達が行いました。企画チームの生徒達は、web会議システムを活用して何回もパネリストの方と打ち合わせを行いました。また、パネルディスカッションのテーマはICT技術を駆使し、当日その場で全校生徒の投票で決めたり、質問を教室からもリアルタイムにできるよう工夫したりして全校生徒参加型のパネルディスカッションを成功させてくれました。まさしくスロー



パネルディスカッションの様子



スローガン発表の様子

ガン「Restart」軌跡をたどり、奇跡をつくる」これからの諫早高校、附属中学校の新しいスタートを切るにふさわしい、全校生徒参加型のパネルディスカッションだったと思います。
新型コロナウイルス感染症については、先のこととが全く見通せない状況ですが、本校の教育活動は、その教育的な効果と感染予防との両立を図りながら今後も進めてまいります。そのような中、学校活動の様々な局面で、生徒が主体的に活動し、対話を通じた多様性との出会いの中で、未来の創り手である生徒がさらに大きく成長していくこと

を期待しているところであります。同窓会員の皆様におかれましては、本校の教育活動に對しまして、今後とも一層のご協力、ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。
最後になりますが、会員の皆様は今後ますますのご発展とご健勝を祈念

「コロナ禍」における本校の教育活動の工夫について

全日制教頭 和田 亮一

令和二年においては、新型コロナウイルス感染症のため、二回の臨時休業を強いられました。本校では、「with コロナ」と言われる時代に「感染症のリスクを極力低下させながら、やれることは実施する」という姿勢で教育活動を行ってきました。
臨時休業期間中における学習については、自宅学習の生徒と教職員がインターネットでつながり、課題の配布や提出、質問の受付や回答等を行いました。
卒業式及び入学式は、卒業生もしくは新入生とその保護者、教職員のみとし、密の状態を避けるよう座席の間隔を空ける等工夫しました。
始業式や終業式は、校内放送やテレビ会議システムを活用し、生徒は各教室に分かれて校長講話を音声や動画で視聴しました。
九月の体育大会はトランスコスモスタジアム長崎で開催しました。平日にもかかわらず、メインスタンド三階には、保護者をはじめとするたくさんの方の観客の皆さんが来場され、応援していただきました。新型コロナウイルスに伴う臨時休業以降では、中高六年が一室に集う初めての学校行事となりました。
一月の校内マラソン大会は、中高で実施時間帯をずらしたり、一部内容を削減したりすることで、会場の県立総合運動公園での滞在時間を極力短くする工夫を行いました。密の状態を避けるだけでなく、寒さ等で体調不良につながるようには配慮いたしました。
秋に開催する予定だった文化祭は、三月に延期して、文化部合同発表会と合わせて諫早文化会館で実施する予定です。
残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながらの教育活動の展開は当面継続する模様ですが、「感染症のリスクを極力低下させながら、やれることは実施する」という姿勢で、生徒の充実した学校生活につながるよう力を尽くしてまいります。

お礼—令和二年度全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

都大路を終えて

陸上部女子主将
戸村 文音

昨年行われた全国高校駅伝大会では、新型コロナウイルス感染症の流行で制限される中、たくさんのご支援とご声援、ありがとうございました。結果は一時間四十分四十八秒で十七位となり、目標であった都大路五位入賞を達成することができませんでした。昨年の都大路八位入賞を上回る結果を出そうという気持ちで、この一年、練習に励



んできました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで当たり前のようにあった大会や練習ができなくなり、落ち込んだり、「県大会や都大路は開催されるのか」と不安な気持ちでいっぱいになったりしました。その中でも、自分達ができることは何かを考え、全員で声を掛け合いながら頑張ってきました。大会や練習が制限なくできることは当たり前



3区 藤丸

2区 川口

ではないということを感じました。県大会では、無観客での開催でしたが、襷を繋ぐことができ、駅伝ができる喜びを噛みしめながら小浜路を駆け抜けました。都大路では、沿道での応援自粛や競技場内無観客の中でしたが、一年間、目標と

心での襷リレーとなりましたが、全員が全力を出し切りました。今年こそは都大路で入賞できるように、よりいっそう精進して参ります。このような状況にも関わらず、同窓会をはじめとするたくさんの方々



シリーズ「おしどりの池」⑬

富永 恵美子 (三十一回生)

教員人生を振り返ると、教員採用試験は長崎大水害で延期となり、まだ泥や木々が残るなか長崎西高校に受験に行きました。高校総体で諫早に

る休校から始まり、未経験の連続で、当たり前というのではないのだと痛感しています。

教員生活の中で母校に赴任することは、夢でもありません。私にとって

来ている時に普賢岳の大爆発があり、救急車が行き交う様子に呆然としました。そして、今年度、新型コロナウイルスによ

は、高校時代は楽しい思い出ばかりです。勉強はたいへんでしたが、高校生になった時に「高校っ

てこんなに自由で、自分達が考えて行動できる余地があるんだ」と感動したことを覚えています。もちろん、「自立創造」の校訓のもと自分達で考

たくまじさに感じています。厳しい状況の中でも多くの行事を自分達で企画し、綿密な計画のもとと全校生徒で楽しめるものにする。個々人も、目を世界に向け多くのことに果敢に挑戦していく。私達の頃はスケールが違う「自立創造」です。

そんな後輩達が「楽しかったな」と思えることが当たり前である諫早高校であり続けるために、先輩として、教員として力を尽くしていきたいと思っています。

コロナ禍の苦難を乗り越えて

定時制
教務主任 森山 悠

令和二年度は新型コロナウイルス感染症により様々な行事が中止となる中、ようやく二学期になり対策を講じながら行事を実施できるようになった。まずは、二年に一回のバス遠足。皆が楽しみにしていた行事の一つで、今回は長崎に住んでいないがあまり行ったことがない観光地「稲佐山」を訪れた。展望台のある場所までスロープカーに乗ったり、歩いたりして

十月末に規模を縮小し文化祭を開催。生徒会と文化祭実行委員が催しを盛り上げた。三密を避けるため体育館で実施し、マスク、検温、消毒の徹底、家族のみの入場制限、一時間三十分程度の開催となったが、各学年が作成した展示物などを見て回り十分楽しむことができた。

十一月末には中地区体育大会が実施された。ここでも新型コロナウイルス感染症対策のため球技は接触の少ないバドミントンと卓球、将棋・オセロはシールドマスク着用での開催となった。開会式もソーシャルディスタンスを保つ為にグラウン

普通に行われてきました。新型コロナウイルス感染症の流行により世界中で多くの人々が呻吟するという厳しい状況下で、同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も変更を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。本校も臨時休業を余儀なくされた時期がありましたが、現在、生徒達は感染予防に努めながら、日々の活動に励んでいます。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございます。

普通に行われてきました。新型コロナウイルス感染症の流行により世界中で多くの人々が呻吟するという厳しい状況下で、同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も変更を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。本校も臨時休業を余儀なくされた時期がありましたが、現在、生徒達は感染予防に努めながら、日々の活動に励んでいます。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございます。

普通に行われてきました。新型コロナウイルス感染症の流行により世界中で多くの人々が呻吟するという厳しい状況下で、同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も変更を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。本校も臨時休業を余儀なくされた時期がありましたが、現在、生徒達は感染予防に努めながら、日々の活動に励んでいます。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございます。



不易と流行

東内 敏 紀 (四十九回生)

卒業して二十三年。諫早高校は、私が生徒の時代と変わらない風格で迎えてくれました。毎日部活動で、暗くなるまで走り

このように湧き上がってきます。昨今、社会は技術革新やグローバル化によって次々と新しい価値観が生まれて、大学入試さえも変化しています。また、

今年はCOVID-19によって、今までの当たり前が、好むと好まざるとにかかわらず、変化を強要されてきました。しかし、今の生徒達は、そのような環境下でも明るさを失わず、自立して積極的に学びを深めています。オンラインを駆使し、新しい世界を創造し続けています。良き諫早高校の伝統を引き継ぎ、進化し続ける諫早生。彼らの未来が、光り輝きますように。



編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行により世界中で多くの人々が呻吟するという厳しい状況下で、同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も変更を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。本校も臨時休業を余儀なくされた時期がありましたが、現在、生徒達は感染予防に努めながら、日々の活動に励んでいます。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございます。